

地域から

発信



北見

育て冬季スポーツの星

北見工大エリートアカデミーの軌跡

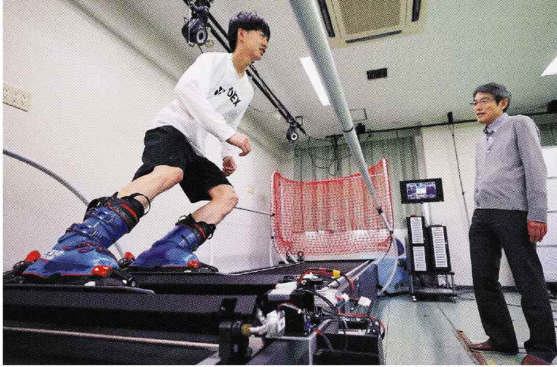
①

科学駆使し世界に挑む

6月上旬の北見工業大3号館4階の研究室。学生がアルペンスキーのシミュレーター「SKYT ECH（スカイテック）」を使い、体を左右に振っている。モニターには、動きに合わせて雪斜面を滑走しているように見える映像が映る。足の裏にかかる圧力やスキー板の角度などのデータがパソコンに蓄積されていく。

入試に選手枠

学生は、スポーツ科学を駆使して国際的な舞台で活躍するアスリートの育成を目指す「エリートアカデミー」に所属する。スキーの研究者で北見工



業大学長だった鈴木聡一郎名誉教授(66)らが2021年度 アカデミーを創設。入試に冬季スポーツ枠を設け、アルペンスキーとカーリングの競技者を受け入れている。アカデミー生は一般学生と同じ講義に加え、公

認スポーツ栄養士を招いた栄養学講座も受ける。体力を解析したり、教授や学生の研究に被験者として参加したりする。スキーでは、全日本技術選手権で6連覇中の武田竜さん(41)がシーズン中に月2、3回、指導を行

う。カーリングでは、大学近くのアルゴグラフィックス北見カーリングホールで戦術を研究する分析室やストーンの軌跡を解析する機

器を使って技術を磨く。21年春、1期生として4人が入学。今年2月のカーリング日本選手権に出場した男子ロコ・ソラーレ(ロコ・ドラゴ)の前田拓海さん(23)やコナン・サドーレの大内遥斗さん(22)ら第一線で活躍する選手が籍を置いた。大内さんは「競技に打ち込める環境を求め、カーリングを科学的に研究できる環境を求めていた」と語る。

「自身」を研究

現在は1〜4年の計9人が在籍する。内訳はスキーが6人、カーリングは3人。カーリングのアカデミー生で2年の相沢天さん(19)は「高校で受けたことがない講座や触れたことのない練習施設ばかり。先輩に日本を代

表する選手がいて刺激も多い」と話す。4年の卒業研究では教授や准教授の指導を受けながら、自身の課題や競技中に感じた疑問をテーマに研究をする。ロコ・ドラゴの前田拓紀さん(22)は4年の今、「ブラシでこする位置によってストーンの軌道はどう変化するか」をテーマにしている。「疑問に真剣に向き合えるのがアカデミーの良いところ。もう1ランク上の技術を身につけたい」と意気込む。

鈴木名誉教授は「最良の環境で研究や練習ができることが、大学の大きな特長の一つになれば」と期待する。それに応えるように、アカデミー生が世界の舞台に挑む。(北見報道部 安沢悠太) 1/3回連載します

(C) 北海道新聞社 無断転載、複製および頒布は禁止します。